

安全データシート

SDS: 4803A
作成: 2025/5/15
改訂:

製品名: Suspension Buffer -norovirus test-

1. 化学品及び会社情報

製品名: Suspension Buffer -norovirus test-
製品コード: FIK-401
供給者の会社名称: 東洋紡株式会社
住所: 大阪市北区梅田一丁目13番1号 大阪梅田ツインタワーズ・サウス
担当部門: バイオ事業総括部
(TEL: 06-6348-3786(国内), 06-6348-3846(海外), FAX: 06-6348-3833)
推奨用途・使用上の制限: ノロウイルス核酸検出試薬(研究用)

2. 危険有害性の要約

・ Suspension Buffer -norovirus test-
GHS分類

急性毒性(経口)	区分
急性毒性(経皮)	区分に該当しない(区分外)
皮膚腐食性/刺激性	区分に該当しない(区分外)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分に該当しない(区分外)
生殖毒性	区分1B
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分2
水生環境有害性 短期(急性)	区分に該当しない(区分外)
水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない(区分外)

GHSラベル要素

絵表示:



注意喚起語: 危険
危険有害性情報: 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(生殖器(男性))の障害のおそれ

注意書き:

- 【安全対策】 使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- 【応急措置】 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。
- 【保管】 施錠して保管すること。
- 【廃棄】 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の専門の廃棄物処理業者業務委託することに廃棄すること。



安全データシート

SDS: 4803A
作成: 2025/5/15
改訂:

製品名: Suspension Buffer -norovirus test-

3. 組成及び成分情報

・Suspension Buffer -norovirus test-

化学物質・混合物の区別: 混合物

成分及び濃度又は濃度範囲

成分名称	含有量 wt%	CAS#	化審法	安衛法		化管法	毒劇法
			官報公示 番号	官報公示 番号	通知物質	指定物質	毒物劇物
ジメチルスルホキシド	1-10	67-68-5	2-1553	公表	該当	非該当	非該当
酢酸マンガン(Ⅱ)※	1-1.5	638-38-0	2-693	公表	該当	該当	非該当

※酢酸マンガン(Ⅱ)・4水和物中の、酢酸マンガン(Ⅱ)として換算

4. 応急措置

吸入した場合:	直ちに新鮮な空気のある場所に移し、異常のある場合は医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合:	気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。 製品に触れた部分を多量の水および石鹸でよく洗う。 外観に変化があるか、痛みが続く場合には直ちに医師の診断を受ける。
眼に入った場合:	気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受ける。
飲み込んだ場合:	気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。 できるだけ吐き出させ、異常がある場合は、医師の診断を受ける。
応急措置をする者の保護:	気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。 情報なし

5. 火災時の措置

消火剤:	水、二酸化炭素、泡消火剤、粉末消火剤
使ってはならない消火剤:	情報なし
特有の危険有害性:	情報なし
特有の消火方法:	消火作業は可能な限り風上から行う。
消火を行う者の保護:	大規模な火災の場合は保護衣、呼吸用保護具を着用する。



安全データシート

SDS: 4803A
作成: 2025/5/15
改訂:

製品名: Suspension Buffer -norovirus test-

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置:
環境に対する注意事項:
封じ込め及び
浄化の方法及び機材:

作業を行う際は保護具を着用し、眼・皮膚への接触や吸入を避けるように注意する。
直接河川など環境中に放出しない。
少量の場合は、土砂、おがくず、ウェス等に吸収させて空容器に回収する。大量の場合は、土砂などで流れを止め、安全な場所に導いてから回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策: 適切な保護具を使用し、吸い込んだり、目や皮膚に触れたりしない。

局所排気・全体換気:
安全取扱い注意事項:

適切に換気し保護具を着用し取扱うこと。
強酸化剤との接触は避ける。
使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

接触回避:
衛生対策:

情報なし
取扱い後は手を充分洗浄する。取扱い場所を常に整理整頓し、清潔に保つ。

保管

安全な保管条件:

火気及び熱源より遠ざける。
風雨や直射日光を避ける。
強酸化剤とは隔離して保管する。
容器は密閉状態で保管する。
荷崩れしないように保管する。
施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

成分名称	厚生労働省(安衛法)		日本産業衛生学会	ACGIH	
	管理濃度	濃度基準値	許容濃度	TLV-TWA	TLV-STEL
酢酸マンガン(II)	未設定 ppm 0.05mg/m ³ 3as Mn	未設定 ppm 未設定 mg/m ³	未設定 ppm 未設定 mg/m ³	未設定ppm 未設定 mg/m ³	未設定 ppm 未設定 mg/m ³

設備対策:

換気装置を設置する。
取扱い場所近くに洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具:
手の保護具:
眼の保護具:
皮膚及び身体の保護具:

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
保護手袋
保護眼鏡
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
保護衣等

製品名: Suspension Buffer -norovirus test-

9. 物理的及び化学的性質

• Suspension Buffer -norovirus test-

外観	物理的状态:	常温で液体であり、0℃以下で固体
色:		赤
臭い:		データなし
融点・凝固点:		データなし
沸点又は初留点 及び沸点範囲:		データなし
可燃性:		データなし
爆発下限及び爆発上限 ／可燃限界:		データなし
引火点:		水溶液のため引火性はないと考えられるが、水分蒸発後89℃の引火点を持つジメチルスルホキサイドが残留する。
自然発火点:		データなし
分解温度:		データなし
pH:		6.0～9.0
動粘度:		データなし
溶解度:		データなし
n-オクタノール／水 分配係数:		データなし
蒸気圧:		データなし
比重(密度):		データなし
蒸気密度:		データなし
粒子特性:		データなし

10. 安定性及び反応性

• Suspension Buffer -norovirus test-

反応性:	
化学的安定性:	-20℃以下で安定。
危険有害反応可能性:	データなし
避けるべき条件:	高熱、炎
混触危険物質:	強酸化剤
危険有害な分解生成物:	データなし

11. 有害性情報

• Suspension Buffer -norovirus test-

急性毒性(経口):	区分に該当しない(区分外)
急性毒性(経皮):	区分に該当しない(区分外)
急性毒性(吸入):	区分に該当しない(分類対象外)(気体) 区分に該当しない(分類対象外)(蒸気) 区分に該当しない(分類対象外)(粉塵・ミスト)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性:	区分に該当しない(区分外)
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性:	区分に該当しない(区分外)
呼吸器感作性:	分類できない
皮膚感作性:	分類できない
生殖細胞変異原性:	分類できない
発がん性:	分類できない
生殖毒性:	区分1B
特定標的臓器毒性、単回ばく露:	分類できない
特定標的臓器毒性、反復ばく露:	区分2(生殖器(男性))
誤えん有害性:	分類できない

安全データシート

SDS: 4803A
作成: 2025/5/15
改訂:

製品名: Suspension Buffer -norovirus test-

成分

ジメチルスルホキシド

急性毒性（経口）:	区分に該当しない（区分外） LD50: 14500～20000 mg/kg[ラット]
急性毒性（経皮）:	区分に該当しない（区分外） LD50: 40000 mg/kg[ラット]
急性毒性（吸入）:	区分に該当しない（分類対象外）（気体） 分類できない（蒸気） 区分に該当しない（区分外）（粉塵・ミスト） LC50:> 5.33 mg/L[ラット]
皮膚腐食性及び皮膚刺激性:	区分に該当しない（区分外） 動物への影響: OECD TG 404に準拠したウサギを用いた皮膚刺激性試験でごく軽度あるいは明らかな紅斑がみられたが、72時間後には全て消失した（SIDS (2008)、GESTIS (Access on September 2019)、REACH登録情報 (Access on November 2019))。以上より、区分に該当しないとした。
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性:	区分に該当しない（区分外） 人への影響: 本物質は眼科領域において、点眼液の抗炎症成分又は溶媒として用いられ、10～30%では点眼しても影響はないが、50～90%であれば刺激を感じる（GESTIS (Access on September 2019))。、動物への影響: OECD TG 405に準拠したウサギを用いた眼刺激性試験で、軽度～中等度の結膜に対する刺激性反応がみられたが、72時間後には全て消失した（SIDS (2008)、GESTIS (Access on September 2019)、REACH登録情報 (Access on November 2019))。以上のヒト及び動物の知見より、区分に該当しないとした。
呼吸器感作性:	分類できない 人への影響: データ不足のため分類できない。
皮膚感作性:	区分に該当しない（区分外） 動物への影響: 本物質はOECD TG 406に準拠したモルモットを用いた皮膚感作性試験で陰性であり、ヒトでの感作性試験でも陰性であった（SIDS (2008)、GESTIS (Access on September 2019))。OECD TG 429相当のマウス局所リンパ節試験（LLNA）においてSI値は3未満であり、陰性と判定された（REACH登録情報 (Access on November 2019))。本物質はモルモットを用いた皮内投与による皮膚感作性試験で陰性であった（DFGOT vol.3 (1992))。以上より、区分に該当しないとした。
生殖細胞変異原性:	分類できない その他の変異原性 in vivoでは、腹腔内投与によるげっ歯類小核試験、優性致死試験及び姉妹染色分体交換試験（妊娠マウス骨髄及び胎児肝臓を含む）で陰性の報告がある（DFGOT vol.3 (1992)、SIDS (2008)、環境省リスク評価書第13巻 (2015))。ラット骨髄染色体異常試験では陽性の報告があるが、細胞毒性に起因する可能性が指摘されている（DFGOT vol.3 (1992)、環境省リスク評価書第13巻 (2015))。in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験、マウスリンフォーマ試験、遺伝子突然変異試験、不定期DNA合成試験で陰性の報告がある（NTP DB (Access on September 2019)、DFGOT vol.3 (1992)、SIDS (2008)、環境省リスク評価書第13巻 (2015))。以上より、ガイダンスにおける分類できないに相当し、区分に該当しない。
発がん性:	分類できない その他試験データ 国内外の分類機関による既存分類はない。利用可能なヒトを対象とした報告はない。ラット、イヌ、サル の長期間経口投与試験で、発がん性の証拠は認められていない（環境省リスク評価書第13巻 (2015))。以上より、分類できないとした。

安全データシート

SDS: 4803A

作成: 2025/5/15

改訂:

製品名: Suspension Buffer -norovirus test-

生殖毒性:

分類できない

その他 ラットを用いた強制経口投与による簡易生殖毒性試験 (OECD TG 421) において、雌親で体重増加抑制、雄親で肝臓の絶対及び相対重量増加がみられる最高用量まで生殖能、児動物に影響はみられていない (SIDS (2008))。雌ラットの妊娠6～15日に強制経口投与した発生毒性試験 (OECD TG 414) において、5,000 mg/kg/dayという極めて高い用量で母動物に体重増加抑制、体重減少、摂餌量減少がみられ、同用量の胎児に母動物の体重増加抑制と関連したと考えられる体重減少がみられたほか、尿管拡張、肋骨の骨化遅延がみられている。また、胎児に用量依存性のない腎盂拡張がみられているが、催奇形性はみられていない (SIDS (2008)、環境省リスク評価書第13巻 (2015))。雌ウサギの妊娠7～28日に強制経口投与した発生毒性試験 (OECD TG 414) において、母動物に体重増加抑制がみられたが胎児に影響はみられていない (SIDS (2008))。以上、ラットの簡易生殖毒性試験より、生殖影響はみられておらず、雌ラット及び雌ウサギの発生毒性試験より、発生影響はみられていない。しかし、ラットの簡易生殖毒性試験はスクリーニング試験であることからデータ不足のため分類できないとした。

特定標的臓器毒性、単回ばく露:

区分2(呼吸器)

ラットに本物質エアロゾル (注: SIDS Dossier (2008) にはエアロゾルと記載) を1,600 mg/m³ (1.6 mg/L、区分2相当) で4時間単回吸入ばく露した結果、死亡例、毒性症状はみられなかったが、剖検で部分的な肺水腫がみられた (SIDS (2008))。原著者によって実施された更に高濃度 (2,000～2,900 mg/m³)、長時間 (24、40時間) のばく露でも同様の所見がみられた (SIDS (2008))。以上の実験動物での情報より、区分2 (呼吸器) とした。

特定標的臓器毒性、反復ばく露:

区分に該当しない (区分外)

ラットを用いた13週間の吸入ばく露試験 (6時間/日、7日/週) の結果、2,783 mg/L (区分2超) の雌で鼻道の呼吸上皮に偽腺形成、扁平上皮の過形成、嗅上皮で好酸性封入体の増加がみられたほかは投与に関連した影響はみられなかった (SIDS (2008)、環境省リスク評価書第13巻 (2015))。ラットに本物質の50%水溶液を1～9 mL/kg (1,100～9,900 mg/kg/day) の濃度で78週間 (5日/週) 経口投与した結果、1 mL/kg (1,100 mg/kg/day、区分2超) 以上で体重増加抑制、9 mL/kg (9,900 mg/kg/day、区分2超) の用量で軽度のヘモグロビン及びヘマトクリット値の減少、眼のレンズの屈折率に若干の変化がみられたほかは影響はみられなかった (SIDS (2008)、環境省リスク評価書第13巻 (2015))。ウサギ、イヌ、ブタに経皮適用した試験で、区分2超の用量で眼のレンズの変化、皮膚反応等がみられた (SIDS (2008))。霊長類では本物質の眼への毒性に対する感受性は低く、ラット、ウサギ、イヌ、ブタでみられた眼への影響はヒトへの関連性はないと考えられる (SIDS (2008))。以上より、実験動物への吸入、経口、経皮ばく露において区分2の範囲までで影響は報告されていないことから、区分に該当しないとした。

誤えん有害性:

分類できない

人への影響: データ不足のため分類できない。

酢酸マンガン(II)

急性毒性 (経口):

区分に該当しない (区分外)

LD50: 3408 mg/kg[ラット]

急性毒性 (経皮):

分類できない

動物への影響: データなし。

急性毒性 (吸入):

区分に該当しない (分類対象外) (気体)

区分に該当しない (分類対象外) (蒸気)

分類できない (粉塵・ミスト)

動物への影響: データなし。

安全データシート

SDS: 4803A
作成: 2025/5/15
改訂:

製品名: Suspension Buffer -norovirus test-

皮膚腐食性及び皮膚刺激性:	分類できない 動物への影響: データ不足のため分類できない。
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性:	分類できない 動物への影響: データ不足のため分類できない。
呼吸器感受性:	分類できない 人への影響: データ不足のため分類できない。
皮膚感受性:	分類できない 人への影響: データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性:	分類できない その他の変異原性 データ不足のため分類できない。
発がん性:	分類できない その他試験データ データ不足のため分類できない。
生殖毒性:	区分1B その他 本物質を雄マウスに7.5~30 mg/kg/day の用量で43日間経口投与した試験で、用量依存的な精子運動能の低下及び精子数の減少がみられた (産衛誌 56巻 (2014)、ATSDR (2012))。また、塩化マンガン、硫酸マンガンなど無機マンガン化合物では胎児毒性、奇形の発生が報告されている。すなわち、塩化マンガン四水和物を妊娠マウスに皮下投与 (妊娠6~15日) した試験では、母動物に体重増加抑制、摂餌量減少がみられる用量、又はそれ以下の用量で胎児に胚吸収増加、腎不全形成、波状肋骨などがみられた (NITE初期リスク評価書 (2008)、CICAD 12 (1999))。また、塩化マンガンを妊娠ラットの器官形成期 (妊娠6~17日) に静脈内投与した試験でも、母動物毒性 (体重増加抑制、着床数減少) 発現量より低い用量から胎児に胎児死亡、骨格異常、波状肋骨、四肢彎曲がみられている (NITE初期リスク評価書 (2008)、CICAD 12 (1999))。さらに、硫酸マンガンを妊娠マウスに妊娠8日に単回腹腔内投与した試験で外脳症及び胚吸収の増加が認められ、より高用量投与では着床阻害を生じたとの報告もある (NITE初期リスク評価書 (2008))。日本産業衛生学会は、疫学的証拠としては弱いもののマンガン中毒患者でインポテンスや性欲減退がみられたとの症例報告と実験動物で胎児毒性がみられたことを根拠に、マンガン及びマンガン化合物に対し生殖毒性第2群に分類した (産衛誌 56 (2014)、許容濃度の勧告 (2016))。以上、本物質及び無機マンガン化合物の実験動物を用いた試験結果等より、本項は区分1Bが妥当とした。
特定標的臓器毒性、単回ばく露:	分類できない データ不足のため分類できない。



安全データシート

SDS: 4803A
作成: 2025/5/15
改訂:

製品名: Suspension Buffer -norovirus test-

特定標的臓器毒性、反復ばく露:	区分1(生殖器(男性)) 区分2(腎臓) ヒトに関して、本物質に関する情報はない。本物質ではないが、ヒトにおいて経口または吸入経路でマンガンを過剰にばく露されると、急性影響としては記憶障害、精神症状などがみられ、慢性影響としては歩行障害、言語障害などパーキンソン病に類似したマンガン中毒の症状がみられる。特に吸入ばく露において重篤な影響がみられる (NITE初期リスク評価書 (2008))。経口経路では高濃度のマンガンを含む井戸水を摂取した事例や、マンガン濃度の高い地域に居住する住民に対する疫学調査において、仮面様顔貌、筋硬直、振戦及び精神障害などマンガン中毒に似た症状が報告されている (NITE初期リスク評価書 (2008))。マンガン酸化物、マンガン塩製造工場において、二酸化マンガン、四酸化三マンガン、マンガン塩 (硫酸塩、炭酸塩、硝酸塩) の粉じんによる神経行動学的機能への影響の報告がある (NITE初期リスク評価書 (2008))。二酸化マンガンでの職業ばく露により、マンガン中毒による神経毒性の報告があり、視覚の単純反応時間及び眼と手の協調運動の低下に加え、手の硬直がみられた (SIDS (2012)、NITE初期リスク評価書 (2008)、ATSDR (2012)) との記述がある。また、二酸化マンガンを主体とするマンガン化合物では呼吸器障害 (咳、気管支炎、肺炎など) を生じることが多くの報告事例で明らかにされている (ATSDR (2012))。、実験動物については、ラットを用いた強制経口投与による63日間反復投与毒性試験において、区分2相当である87 mg/kg/day (90日換算値: 60.9 mg/kg/day) で糸球体硬化症/糸球体腎炎、尿路結石、137.2 mg/kg/day (90日換算値: 96 mg/kg/day) で精巣の変性がみられ、マウスを用いた強制経口投与による43日間反復投与毒性試験において、区分1相当の4.6 mg/kg/day (90日換算値: 2.2 mg/kg/day) で精子運動性低下、精子数減少の報告がある (ATSDR (2012))。したがって、区分1 (生殖器 (男性))、区分2 (腎臓) とした。
誤えん有害性:	分類できない 人への影響: データ不足のため分類できない。
製品	
急性毒性 (経口):	区分に該当しない (区分外)
急性毒性 (経皮):	区分に該当しない (区分外)
急性毒性 (吸入):	区分に該当しない (分類対象外) (気体) 区分に該当しない (分類対象外) (蒸気) 区分に該当しない (分類対象外) (粉塵・ミスト)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性:	区分に該当しない (区分外)
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性:	区分に該当しない (区分外)
呼吸器感作性:	分類できない
皮膚感作性:	分類できない
生殖細胞変異原性:	分類できない
発がん性:	分類できない
生殖毒性:	区分1B
特定標的臓器毒性、単回ばく露:	分類できない
特定標的臓器毒性、反復ばく露:	区分2(生殖器(男性))
誤えん有害性:	分類できない

安全データシート

SDS: 4803A
作成: 2025/5/15
改訂:

製品名: Suspension Buffer -norovirus test-

1 2. 環境影響情報

・ Suspension Buffer -norovirus test-

生態毒性	
急性毒性:	区分に該当しない (区分外)
慢性毒性:	区分に該当しない (区分外)
残留性・分解性:	情報なし
生体蓄積性:	情報なし
土壤中の移動性:	情報なし
オゾン層への有害性:	分類できない
他の有害影響:	情報なし

成分

ジメチルスルホキシド

生態毒性	
急性毒性:	区分に該当しない (区分外)
魚類:	データなし。
甲殻類:	24hrEC50: 6830 mg/L [ブラインシュリンプ]
藻類:	データなし。
慢性毒性:	区分に該当しない (区分外)
魚類:	データなし。
甲殻類:	データなし。
藻類:	データなし。
残留性・分解性:	難分解性
生体蓄積性:	低濃縮性
土壤中の移動性:	データなし。
オゾン層への有害性:	分類できない

酢酸マンガン(Ⅱ)

生態毒性	
急性毒性:	分類できない
魚類:	データなし。
甲殻類:	データなし。
藻類:	データなし。
慢性毒性:	分類できない
魚類:	データなし。
甲殻類:	データなし。
藻類:	データなし。
残留性・分解性:	良分解性
生体蓄積性:	データなし。
土壤中の移動性:	データなし。
オゾン層への有害性:	分類できない

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物: 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者若しくは地方公共団体が処理を引き受けている場合には地方公共団体に委託する。
焼却: 管理された焼却設備を用いて“大気汚染防止法”等にしたがって焼却する。



安全データシート

SDS: 4803A
作成: 2025/5/15
改訂:

製品名: Suspension Buffer -norovirus test-

1 4. 輸送上の注意

国内規制: 転倒、落下がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
包装・容器が破損しないように、水濡れや乱暴な取り扱いを避ける。
荷崩れしないように取り扱う。

輸送の特定の安全対策: -20℃以下で輸送する。

1 5. 適用法令

化審法: 非該当
PRTR法(化管法)(2023年施行): 第一種指定化学物質(酢酸マンガンのII)
安衛法: 特定化学物質・第2類物質(酢酸マンガンのII), 特定化学物質・管理第2類物質(酢酸マンガンのII), 作業環境評価基準(管理濃度告示物質)(酢酸マンガンのII), 特殊健康診断実施対象物質(酢酸マンガンのII), 名称等を表示すべき危険物及び有害物(ジメチルスルホキシド, 酢酸マンガンのII), 名称等を通知すべき危険物及び有害物(ジメチルスルホキシド, 酢酸マンガンのII), 皮膚吸収性有害物質(ジメチルスルホキシド)

毒劇法: 非該当
消防法: 非該当
労働基準法: 疾病化学物質(酢酸マンガンのII)
大気汚染防止法: 優先取組物質(酢酸マンガンのII)
水質汚濁防止法: 生活環境項目(酢酸マンガンのII), 指定物質(酢酸マンガンのII)
下水道法: 水質基準物質(酢酸マンガンのII)
水道法: 水質基準物質(酢酸マンガンのII)
海洋汚染防止法: 非該当
バーゼル法(特定有害廃棄物輸出入規制法): 特定有害物質(ジメチルスルホキシド)
外国為替及び外国貿易管理法: 輸出許可物質(全リスト)(水, ジメチルスルホキシド, 酢酸マンガンのII), 輸出承認物質(全リスト)(ジメチルスルホキシド), 輸出許可物質(16. キャッチオール規制品目)(水, ジメチルスルホキシド, 酢酸マンガンのII), 輸出承認物質(35の2. 特定有害廃棄物)(ジメチルスルホキシド)

物質登録情報
ENCS(JAPAN): なし
TSCA(USA): なし
REACH(EU): なし
AICS(Australia): なし
DSL(Canada): なし
ECL(Korea): なし
PICCS(Philippines): なし
IECSC(China): なし
ECN(Taiwan): なし

1 6. その他の情報

参考文献 【GHS分類方法】JIS Z 7252: 2019 「GHSに基づく化学物質等の分類方法」社内データNITE-CHIRP(製品評価技術基盤機構)職場のあんぜんサイト(厚生労働省)RTECS(化学物質毒性データ総覧)国際化学物質安全性カード3E Insight for Chemicals(日報化学品法規情報センター)化学大事典(共立出版社)14705の化学商品(化学工業日報社)

制約事項 記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別の取扱いをする場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。記載内容は情報提供を主目的とするものであって、保証するものではありません。